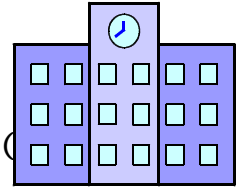


『学校力向上に関する総合実践事業』コーナー その１

今号では、10月号に引き続き『外部アドバイザーによる指導と助言』について紹介させていただきます。

本校では2月中に、道内のアドバイザーによる研修の機会が2度ありました。5日(水)には、北翔大学教授である、谷川 松芳氏(松)を招き『谷川松芳先生による講演会と学習会』と題し、教育講演会と意見交換会を実施しました。管内の他校からは6名の教職員も来校。総勢24名の参加者による講演会と学習会となりました。



教育講演会では、『生活習慣改善を学力向上に活かすコツ』の講演題のもと子どもの生活習慣改善に向けて「家庭教育から子どもの生活習慣を見直すこと」について話していただきました。

【○早寝、早起き、朝ご飯をしっかりとること】

【○家庭学習の時間をしっかり設けること】

【○テレビを見る時間を決めること】

【○家庭内における仕事を決め実行させること】

【○家庭内でしっかりした挨拶を交わすこと】の5

つが大切であると説明がありました。その後、南が丘小学校における生活習慣の確立に向けた発表を行いました。最後に、5～6名のグループに分かれて「家庭の教育力を高めるために」というテーマで、保護者との連携の在り方についてグループ討議を行いました。「保護者の考えをしっかりと受け止め、同じ方向を向いて子どもの指導に当たる」「保護者同士が話し合える場をつくっていく」「保護者の立場を理解した上で、できることから協力を求める」...様々な意見が各グループから発表されとても有意義な時間となりました。

24日(月)には、北海道教育大学釧路校准教授である、境 智洋氏を招き『境智洋先生による授業と講演会』と題し、本校6年生への理科の示範授業と教育講演会を実施しました。管内の他校からは9名の教職員が来校。総勢27名の参加者による示範授業と講演会となりました。

示範授業では、様々な種類の石が配られ、各グループが石を仲間分けをしてそれぞれに名前をつけるという活動から開始。グループの代表が発表した後は『(科学者は)石をどのように分けることができるだろう』という課題の下[色・手触り・形・粒の様子・におい]といった観点で2種類の石に名前をつけました。「授業が終わった後、みんなは石のミニ博士になることができる」と励まされた子どもたち。全員が興味深くじっくり石を観察しながら「さらさらストーン」「つるグレースストーン」「T(つるつる)S(すべすべ)K(軽い)ストーン」「ざらざら温泉石」等と特徴を捉えたネーミングを発表。最後には、中に入っている鉱物の違いから火成岩と堆積岩の違いや見分け方を学ぶことができました。

教育講演会では「実感を伴った理科の授業づくり」をメインテーマに子どもの学び方や理解の仕方に応じた授業の準備の必要性や、体験(観察・実験)と言語活動(発表・話し合い)を重視した授業の展開についてとても分かりやすく説明していただきました。



なお、外部アドバイザーによる指導と助言は、次年度も本校を会場に予定されています。この機会を日常授業や学級経営の充実等に生かしていくことができるよう、職員一同、アドバイザーからの「学び」を大事にしていきたいと思ひます。